

## 三原内港再生実施計画の策定について

### 1 要旨・目的

重要港湾尾道糸崎港における三原内港の再生に向けた三原内港再生実施計画を策定したので報告する。

### 2 現状・背景

三原内港は、社会情勢の変化に伴う航路利用者の減少や港湾施設の老朽化、市中心部における港を活用したにぎわいの創出や魅力的な都市景観づくり等の課題への対応が必要となっている。

このため、令和4年3月に三原市における、三原内港再生基本計画の策定に続き、その後、県と三原市は、地元住民等の参加のもと、にぎわいづくり検討部会及び景観形成検討部会を開催するとともに、港湾利用者等に対するアンケート・ヒアリング調査を実施し、三原内港再生に向けたアクションプランとなる「三原内港再生実施計画（以下、「実施計画」という。）」を取りまとめた。

### 3 概要（※実施計画の概要は別紙1、実施計画の本文は別紙2のとおり。）

#### (1) 取組内容

次に示す3つの取組について、具体的方針や内容等を整理している。

##### ア 港湾機能の配置

三原内港再生基本計画で導入することとされた公園機能・航路機能・イベント広場機能を配置するとともに必要な施設を整理した

##### イ にぎわいづくり

民間事業者を中心とした推進体制を構築するとともに、定期的なイベントの開催に取り組む

##### ウ 景観形成

三原内港や港の周辺からの景観形成方針に基づき、市中心部にふさわしい良好で魅力ある景観の形成を図る

#### (2) 計画期間

概ね10年

#### (3) 根拠法令

—

### 4 スケジュール

6月22日に県市HPにて公表予定

### 5 今後の対応

実施計画に基づき、多様な主体による協働を図り、内港再生の実現に向けて取組を進める。

概要版

# 三原内港再生実施計画



令和5年（2023年）6月



広島県



三原市

# 1. 策定の趣旨

三原内港は、昭和 50 年の山陽新幹線の三原駅停車に伴い、四国や瀬戸内の島々への旅客専用港としてほぼ現在の形に整備され、市中心部における海上交通の拠点として重要な役割を担ってきました。

一方、近年では、社会情勢の変化に伴う航路利用者の減少や港湾施設の老朽化、市中心部における港を活用したにぎわいの創出や魅力的な都市景観づくり等の課題への対応、さらに直近では、観光航路の新設や佐木島での観光活性化等による観光振興に資する受入環境の充実が必要となっています。

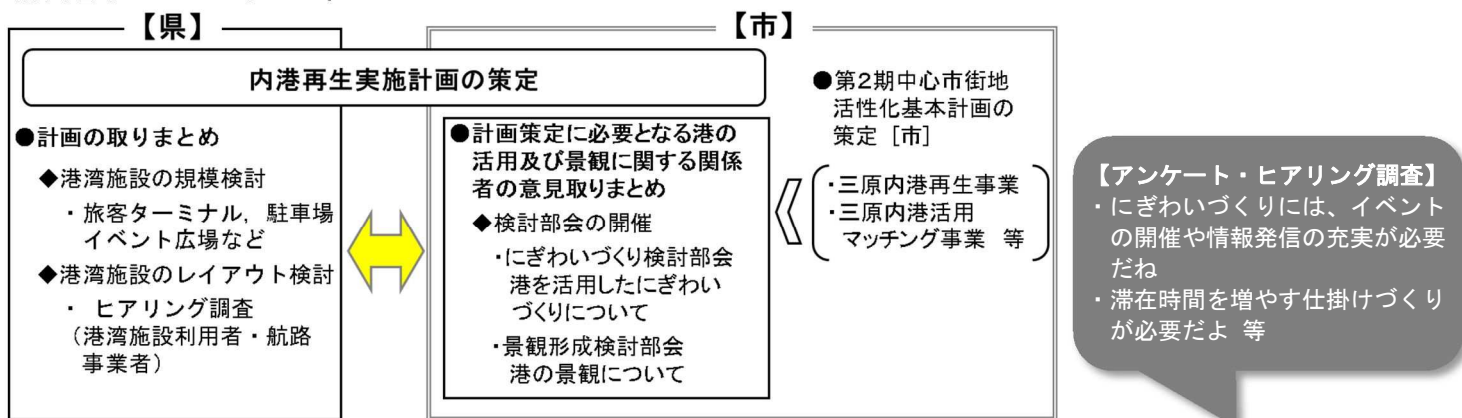
こうした状況を踏まえ、三原内港再生に向けて目指すべき姿を具象化するとともに、取組内容を取りまとめたアクションプランである「三原内港再生実施計画（以下、実施計画）」を策定します。



# 2. 計画策定に至る取組・過程

三原市では、平成 30 年 3 月に策定した「市中心部のランドデザイン」の中で、老朽化した港湾施設の再生に取り組み、港を中心に、人が訪れ、楽しみ、滞留する場所をつくることとしており、令和 4 年 3 月には、三原内港の再生に向けたコンセプトや導入機能等を取りまとめた「三原内港再生基本計画」を策定しました。

その後、広島県と三原市は、市中心部における三原内港のあり方について、地元住民自治組織や民間事業者の参加のもと、「にぎわいづくり検討部会」及び「景観形成検討部会」を開催し、意見を取りまとめるとともに、港湾利用者等に対するアンケート・ヒアリング調査を実施し、港湾施設の規模及びレイアウトの検討を行い、実施計画を取りまとめました。



実施計画策定に向けた取組

**【にぎわいづくり検討部会及び景観形成検討部会】**

- ・ 港でみんなが安心して過ごせるようにしたいよ
- ・ ペアシティ中央ロードを軸に、港と街が一体的なまちなみとなるような景観をつくらう
- ・ 港全体を、展望が良い開放的なくつろぎ・憩いの空間にしたいなあ 等



検討部会等での主な意見

### 3. 三原内港再生実施計画について

実施計画は、主に（１）港湾機能の配置、（２）にぎわいづくり、（３）景観形成の３つの取組内容から構成されます。

#### （１）港湾機能の配置

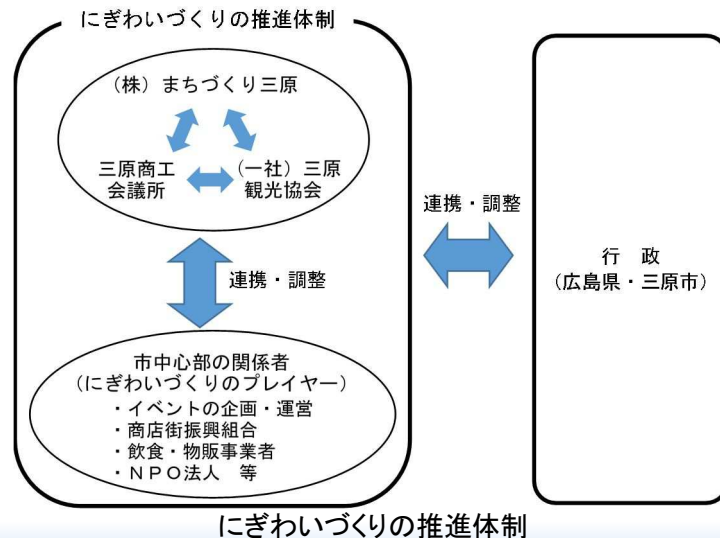
基本計画で三原内港に導入することとしている３つの常設的機能（以下、港湾機能）について、①港全体を公園として整える、②港が開放的な空間となるように航路機能を配置する、③国道や港の周辺から見えるようイベント広場機能を配置する等の基本的な考えをもとに、港湾機能の配置及び必要な施設を整理しました。



港湾機能の配置(案)

#### （２）にぎわいづくり

三原内港を含む市中心部におけるにぎわいづくりに向け、民間事業者等関係者と連携して、港のにぎわいをいつでも感じることができるよう定期的なイベント開催やにぎわいづくりの推進体制の構築に取り組みます。



にぎわいづくりの推進体制

### (3) 景観形成

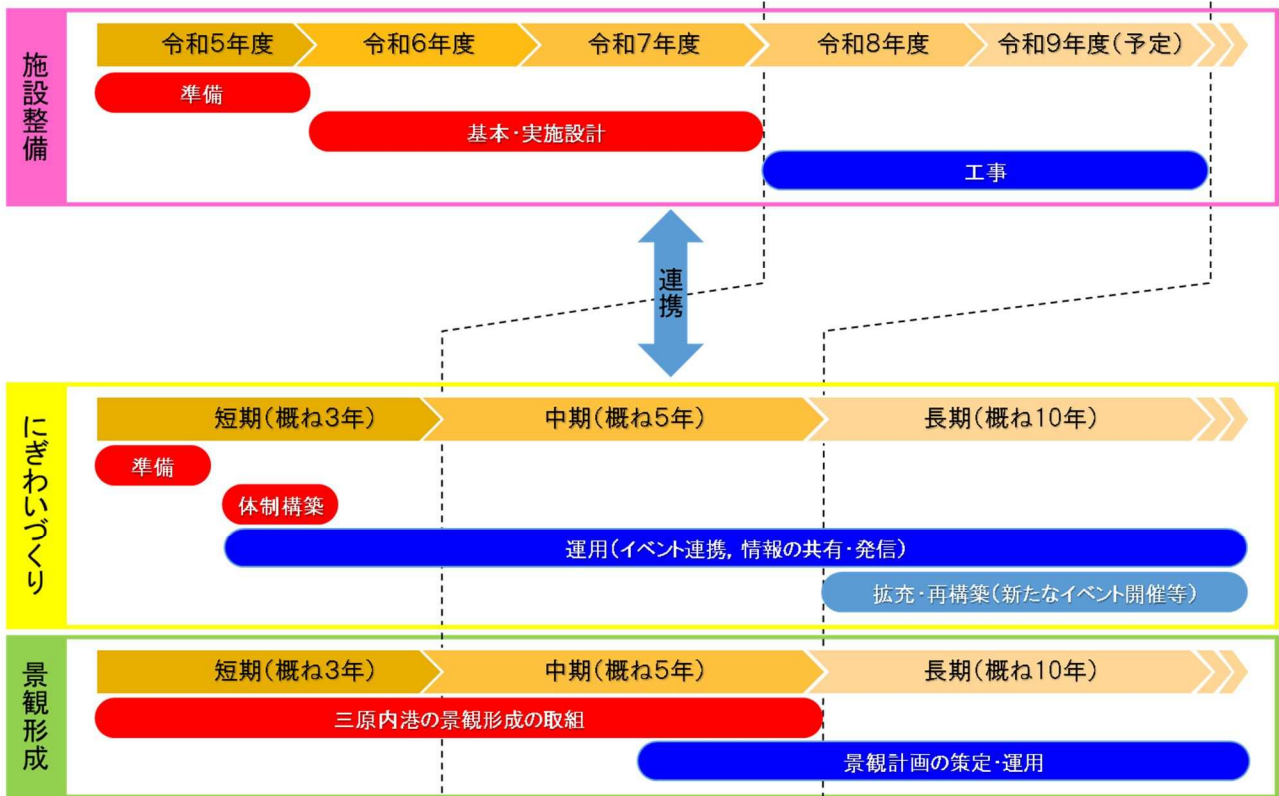
三原内港と港の周辺から見える景観については、景観計画の策定を見据え、街並みや三原城跡等の歴史的景観との調和に配慮した、市中心部にふさわしい良好で魅力あるエリアになるよう方針を整理しました。引き続き、地域住民やまちづくり関係者の理解を得ながら、景観の形成を図ります。

景観形成に向けた方針

項目	主な景観形成方針
港の景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港全体を見渡すことができるよう、また、瀬戸内の島々やしまなみ海道への眺望を確保できるよう、施設の配置や高さ、規模、形態意匠に配慮する。</li> <li>・港と街が一体的なまちなみとなるよう、ペアシティ中央ロードと統一感を持たせる。</li> <li>・港内は安全性に配慮しつつ、親水性の向上、周辺の緑化推進等により水辺景観の向上を図る。</li> <li>・舗装材や夜間照明の統一感を図ることにより、魅力の向上とにぎわいの創出を図る。</li> </ul>

## 4. 実施スケジュール

施設整備、にぎわいづくり及び景観形成については、相互に連携しながら推進します。



実施スケジュール(案)

## 5. 三原内港再生の実現に向けて

本計画の実施にあたっては、広島県と三原市、地域住民や民間事業者の関わりや参画のもとで、取組を進めていくことが重要です。そのため、にぎわいづくりの推進体制をはじめ、多様な主体による協働を図り、内港再生の実現に向けて取組を推進します。



# 三原内港再生実施計画



令和5年（2023年）6月



広島県



三原市

## 目 次

第1章	三原内港再生実施計画について.....	1
第1節	はじめに.....	1
第2節	実施計画策定の流れ.....	2
第2章	上位関連計画の整理.....	3
第1節	実施計画の位置付け.....	3
第2節	上位関連計画の整理.....	4
第3章	ニーズ等の把握.....	7
第1節	ヒアリング調査.....	7
第2節	検討部会.....	10
第4章	港湾機能の配置.....	14
第1節	対象区域.....	14
第2節	港湾機能の配置に関する基本的な考え.....	15
第3節	港湾機能の配置.....	16
第4節	施設整備の考え方.....	18
第5章	にぎわいづくり.....	20
第6章	景観形成.....	21
第7章	実施スケジュール（案）.....	22
第8章	内港再生の実現に向けて.....	22

# 第1章 三原内港再生実施計画について

## 第1節 はじめに

三原内港再生実施計画（以下、実施計画）は、三原内港再生のコンセプトと基本方針を取りまとめた「三原内港再生基本計画（以下、基本計画）」を基に、「第2期三原市中心市街地活性化基本計画」や「広島県みなと・空港振興プラン 2021」等の各種計画を踏まえて、市中心部におけるまちづくりにおいて三原内港の目指すべき姿を具象化するとともに、三原内港再生に向けて県及び市、地域住民や民間事業者が取り組む内容をまとめたアクションプランである。

実施計画の策定にあたり、県と市が連携して、市中心部における三原内港のあり方について、にぎわいづくり及び景観形成に関する検討部会を開催し、関係者の意見を取りまとめるとともに、港湾施設利用者等に対するヒアリング調査を実施し、港湾施設の規模及びレイアウトを検討した（図 1-1 参照）。

これらの成果を踏まえ、港湾機能の配置、にぎわいづくり及び景観形成の3項目について整理するとともに、それらの実現に向けたスケジュール（案）及び推進体制を示したものである。

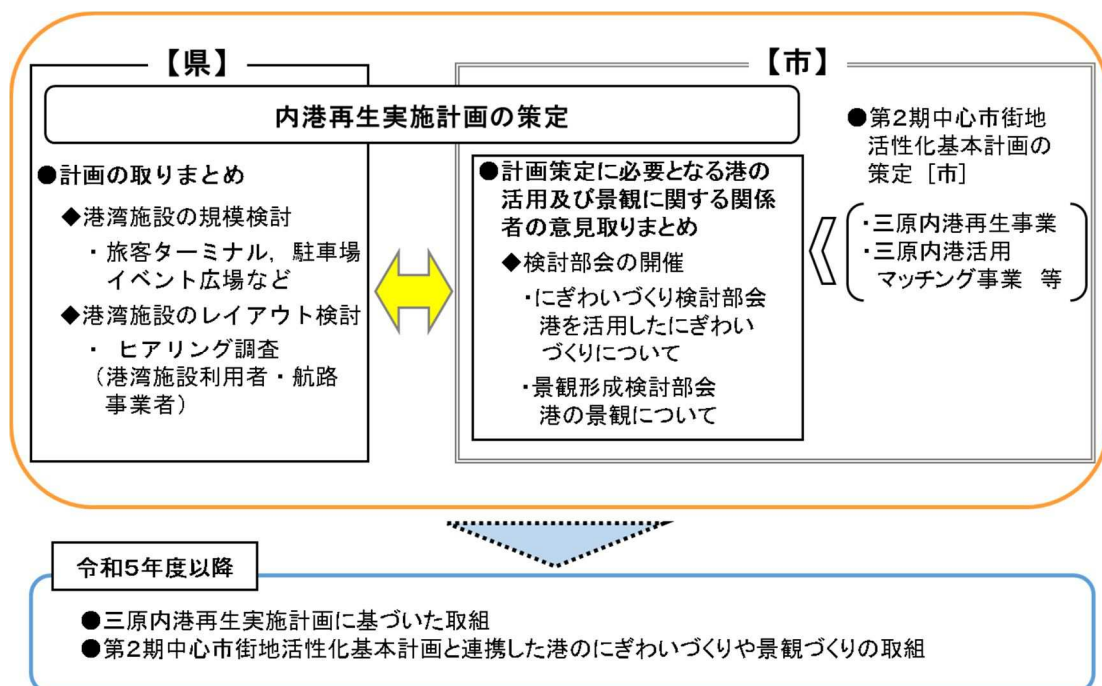


図 1-1 実施計画策定に向けた取組



## 第2節 実施計画策定の流れ

実施計画策定の流れは、図 1-2 に示すとおりである。実施計画の策定においては、基本計画をはじめとする上位関連計画の整理、三原内港の利用者アンケート及び事業者ヒアリング調査の実施や市中心部におけるにぎわいづくり及び景観形成検討部会の開催により、得られた各関係者のニーズ等を把握したのち、港湾機能の配置、にぎわいづくり及び景観形成について検討・整理した。

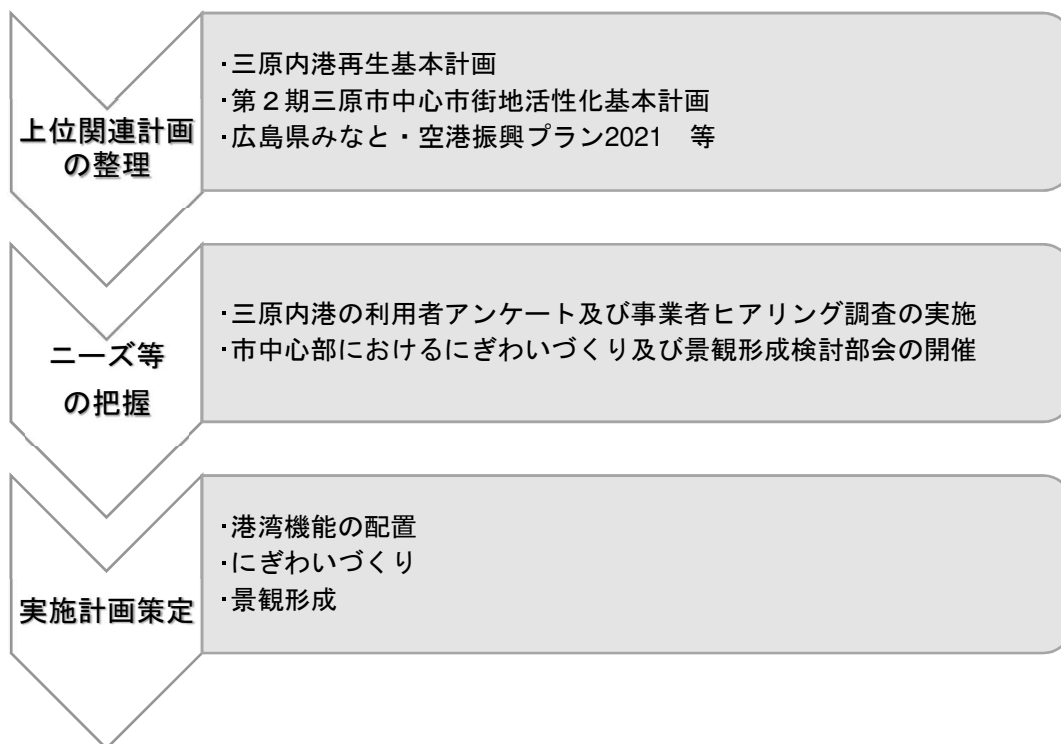


図 1-2 実施計画策定フロー（流れ）

## 第2章 上位関連計画の整理

実施計画の位置付け及び上位関連計画について整理した。

### 第1節 実施計画の位置付け

実施計画の位置付けは、図 2-1 に示すとおりである。

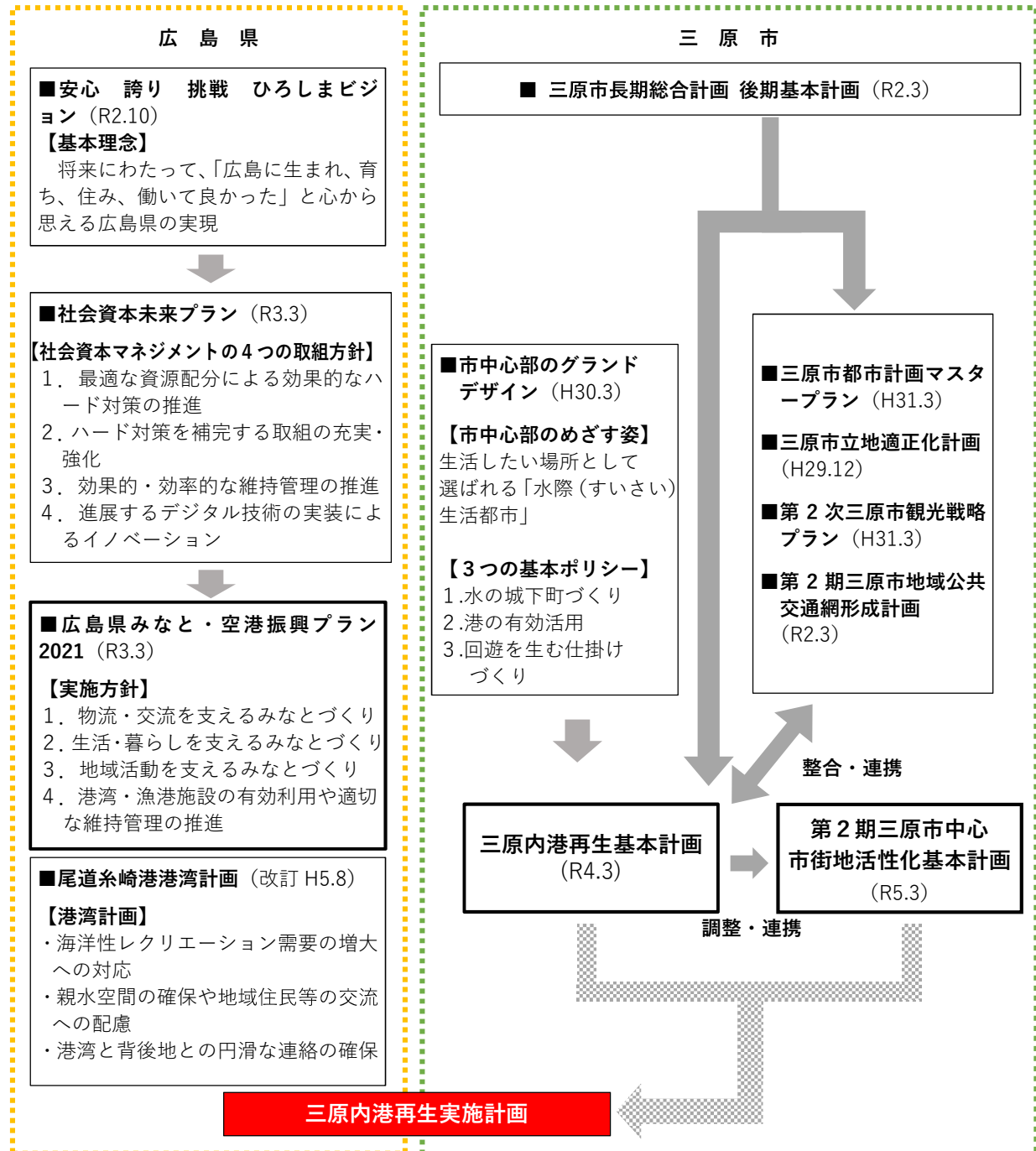


図 2-1 上位関連計画における市中心部“まちづくり”の方針  
(出典：三原内港再生基本計画(令和4年3月)を一部加筆)

## 第2節 上位関連計画の整理

### (1) 三原内港再生基本計画（令和4年3月）

本計画は、市中心部エリアを見据えつつ、三原内港について、「人が訪れ、楽しみ、滞留する場所」として、「瀬戸内海と筆影山と街を望む歩行空間づくり」「港湾施設の再生」「観光客と市民との出会いと交流の促進」「世代を超えた溜まり場づくり」を目指し、にぎわいのあるまちづくりに繋げることを目的として、令和4年3月に市が策定した。

コンセプトを、「日本一人と海と街が近い内港へ ～すべての人にやさしい港をめざして～」として、3つの基本方針を掲げている。

- ① 瀬戸内海と島々を五感で感じる内港
- ② 周辺の地域をつなぐ三原の顔となる内港
- ③ すべての人に開かれたやさしい内港

三原内港には、「航路機能」、「公園機能」及び「イベント広場機能」の3つの常設的機能とその他、付带的機能を導入することとしている。また、市中心部では、景観、回遊性及びユニバーサルデザイン・バリアフリー化の取組を推進していくこととしている（図2-2参照）。

なお、実施計画上の港湾機能とは、本計画における3つの常設的機能のことを指す。

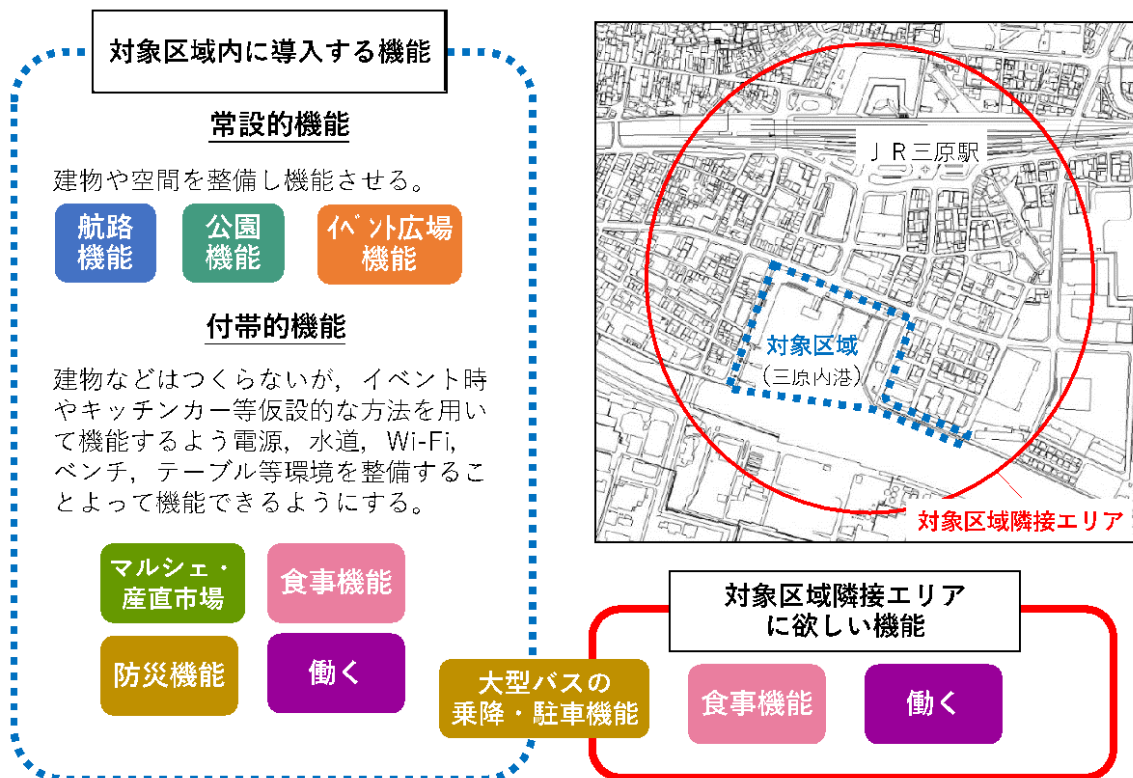


図 2-2 導入機能イメージ

(出典：三原内港再生基本計画（令和4年3月）)

(2) 第2期三原市中心市街地活性化基本計画（令和5年3月）

本計画は、4つのゾーンに分けられたJR三原駅周辺の約90haを対象区域として、計画期間の令和5年4月から令和10年3月まで各種事業を実施し、中心市街地の活性化を推進するものである。

そのうち、三原内港が位置する賑わい交流拠点ゾーンにおいては、駅北側の三原城跡から、JR三原駅、キオラスクエア、三原内港の各拠点において、施設の魅力向上による利用促進を図り、キオラスクエア全体管理協議会や隣接する帝人通り商店街及びマリンロード商店街等と連携した賑わいの創出を図っていくこととしている。また、街や港を散歩したり、海を眺めたり、訪れるだけで楽しめる場所づくりを進めるとともに、駅や港、通りとの統一感を持たせるための景観ガイドラインの策定に取組み、当該ゾーンの賑わいを周辺へ波及させ、賑わいと回遊性の向上を目指す。

なお、設定している4つの基本方針のうち、基本方針1の「魅力ある通り、エリアと活力のあるまち」では、三原内港再生事業の推進により、親水性が感じられ魅力ある空間を創出することとしている（図2-3参照）。

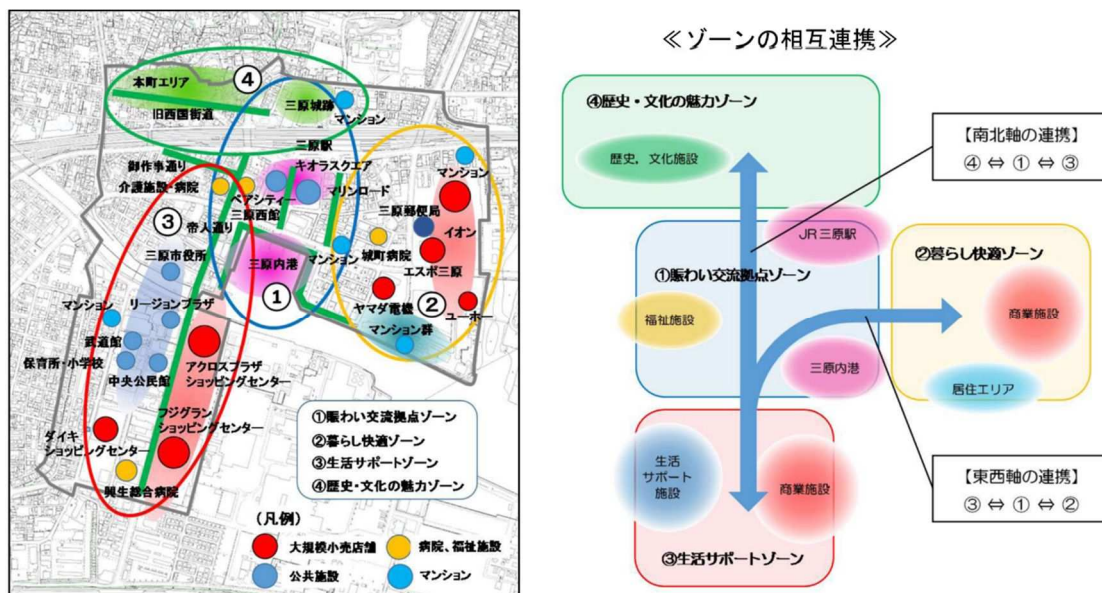


図 2-3 基本計画の整備ビジョンとゾーン設定  
 （出典：第2期三原市中心市街地活性化基本計画（令和5年3月））

### (3) 広島県みなと・空港振興プラン 2021（令和3年3月）

本プランは、社会資本分野のマネジメントの基本方針として策定している「社会資本未来プラン」における港湾・漁港・空港部門の事業別計画として位置付けられている。令和3年度から令和7年度までの5年間を計画期間として、4つの基本方針を基に利用者の視点・ニーズに対応したソフト・ハード対策を実施することにより、将来にわたって、地域の産業活動や安全で安心な暮らしを支え地域の持続的発展に貢献する「みなとづくり」を推進することとしている。

基本方針のうち、「物流・交流を支えるみなとづくり」及び「地域活動を支えるみなとづくり」では、交流・賑わい機能の強化や魅力的なみなとまちづくりを進めることとしており、具体には、瀬戸内へのクルージングの推進や地域の魅力を生かしたみなと環境の整備に取り組むこととしている（図 2-4 参照）。

(○：港湾、△：漁港)

**方針1 物流・交流を支えるみなとづくり**

(1) 企業活動を支える物流基盤の強化

- 企業活動のグローバル化や船舶の大型化に対応するため既存施設を有効活用した大水深岸壁、航路・泊地の整備など港湾機能の拡充
- 生産性向上など企業活動を支える臨港道路整備や物流用地造成の推進 など

(2) 交流・賑わい機能の強化

- 地域の活性化に資するクルーズ客船の誘致や受入環境の充実に必要なハード・ソフト対策
- △瀬戸内海や県内の魅力を生かした観光振興に資するみなと環境の整備 など

**方針2 生活・暮らしを支えるみなとづくり**

(3) 防災・減災対策の推進

- △切迫する巨大地震に対する耐震岸壁の推進
- △地域水産業の災害発生後の業務継続に資する漁港BCPの策定 など

(4) 安全で快適な海上交通機能の維持・充実

- 放置艇対策の推進に向けたハード・ソフト対策 など

(5) 環境保全や資源循環を支援するみなと空間の創出

- 自然エネルギー燃料の効率的な輸送・保管を支援するための港湾機能の充実
- 災害発生土砂や公共残土・浚渫土等建設副産物の有効活用に資する受入施設整備
- 海域環境の改善（藻場・干潟等）
- 環境負荷の少ない物流体系への転換（モーダルシフト）支援 など

**方針3 地域活動を支えるみなとづくり**

(6) 生活交通、漁業活動の円滑化や魅力的なみなとまちづくりの推進

- △島嶼部など地域を支える生活航路の維持・充実
- △漁業活動の拠点となる港湾・漁港施設の維持・充実
- △地域の魅力を生かしたみなと環境の整備 など

**方針4 港湾・漁港施設の有効利用・適切な維持管理の推進**

(7) 既存施設の有効活用

- 遊休施設など既存ストックを活用した新たなニーズへの利用転換
- 港湾施設の利用を促すサービスの充実やポートセールスの推進 など

(8) 効果的で適切な維持管理の推進

- △デジタル技術を活用した効果的・効率的な維持管理の推進 など

図 2-4 みなと振興プランの基本方針

(出典：広島県みなと・空港振興プラン 2021（令和3年3月）)

### 第3章 ニーズ等の把握

市中心部や三原内港に対する地元関係者のニーズや意見を把握するため、広島県では航路利用者や事業者等を対象としたヒアリング調査を、三原市では地元住民自治組織や民間事業者を対象にしたにぎわいづくり及び景観形成検討部会を開催した。

#### 第1節 ヒアリング調査

広島県では、三原内港の港湾施設に関するニーズ等を把握するため、三原内港の利用者アンケート及び事業者等ヒアリングを実施した。

##### (1) 利用者アンケート

実施内容については、表 3-1 に示すとおりである。

表 3-1 利用者アンケートの内容

項目	内容
調査内容	三原内港利用者を対象に利用状況の取りまとめ
調査期間	令和4年4月22日(金)～4月23日(土)
調査対象	定期旅客船利用者、観光客、公園利用者(西公園、内港東公園)
回答数	209人(4月22日(金)106人、4月23日(土)103人)

主な調査結果は、以下の図 3-1 及び図 3-2 に示すとおりである。

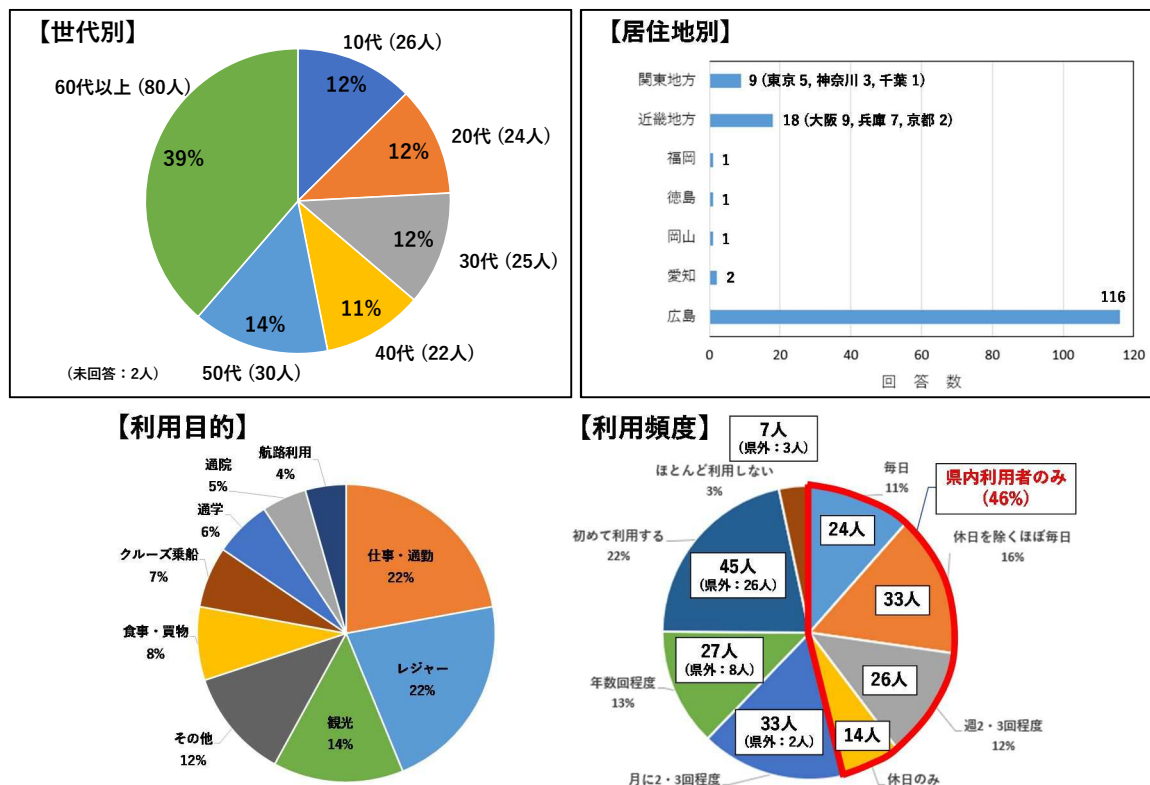


図 3-1 (上) 回答者の属性及び (下) 利用目的・頻度

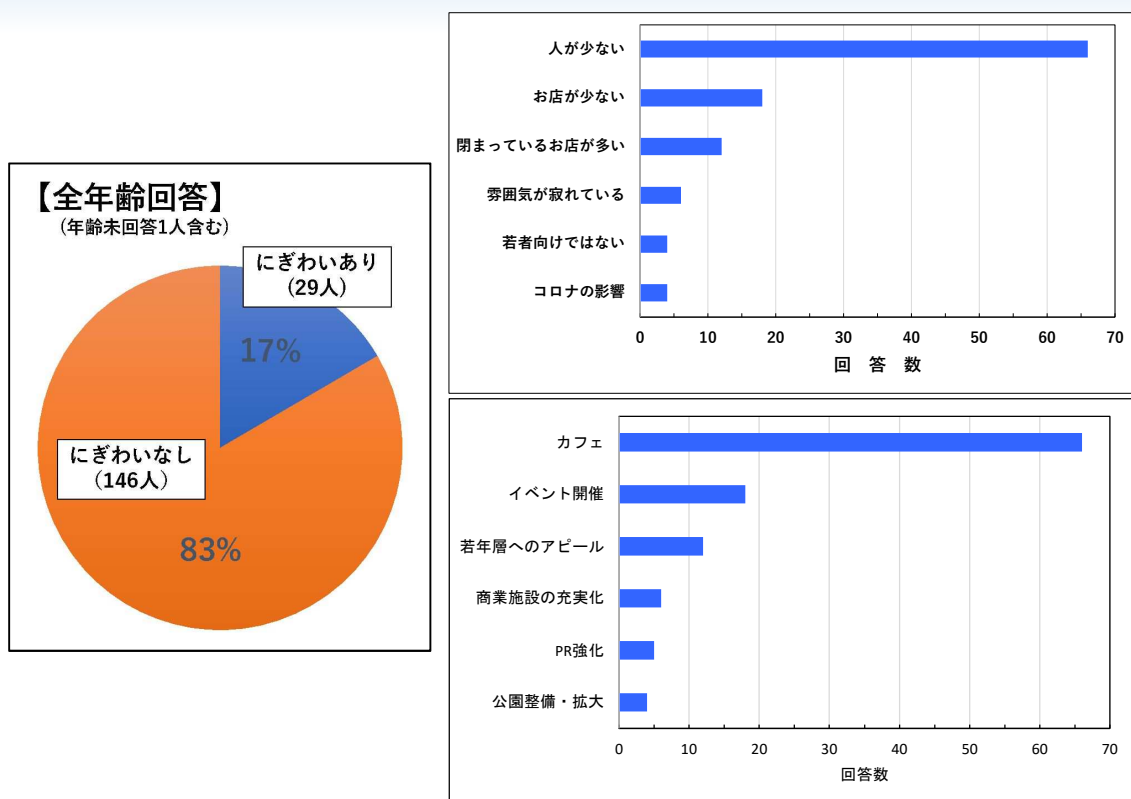


図 3-2 (左) JR三原駅～三原内港周辺エリアに感じるにぎわいの有無  
(右上) にぎわいがないと感じる理由  
(右下) にぎわい創出に必要な取組

調査結果から、実施計画に必要な内容となる主要な内容を抽出し、表 3-2 に整理した。

表 3-2 利用者アンケート結果まとめ

項目	アンケート結果
港湾ビルについて ・ 利用目的・状況 ・ 課題や改善点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>過半数の人が待合室とトイレを利用している。</li> <li>売店・カフェスペースの利用者は、全体の8%と低い。</li> <li>待合室については、古い、統一感がない、展望スペース設置の意見がある。(回答数6人)</li> <li>トイレについては、造りが古く美しくない、狭い、洋式にしてほしいという意見がある。(回答数19人)</li> <li>売店・カフェについては、営業時間の延長や品揃え・店舗を増やしてほしいという意見がある。(回答数16人)</li> </ul>
にぎわいの創出における課題や必要な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>回答者の8割が、賑わいがないと感じている。</li> <li>カフェ設置やイベント開催の意見が多い。(回答数84人)</li> <li>その他、撮影スポット整備、SNSによる情報発信や商業施設の充実化等、若年層をターゲットとして意識した意見がある。(回答数23人)</li> </ul>

## (2) 事業者等ヒアリング

実施内容については、表 3-3 に示すとおりである。

表 3-3 事業者等ヒアリングの内容

項目	内容
調査内容	事業者等を対象に利用状況の取りまとめ
調査期間	令和4年10月～11月
調査対象	航路事業者、棧橋・物揚場利用者等
回答数	15件

調査結果から、実施計画に必要となる主要な意見を抽出し、表 3-4 に整理した。

表 3-4 事業者等ヒアリング結果まとめ

項目	ヒアリング結果
現在の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存施設であるビジター棧橋、旅客棧橋、フェリー棧橋、消防艇棧橋、待機棧橋及び西物揚場は利用されている（東物揚場は現在利用されていない）。</li> <li>フェリー棧橋は、離島からの救急搬送に利用されている。</li> <li>西物揚場はタグボートの係留に利用されている。</li> <li>荒天時に三原内港に避難する船がある。</li> </ul>
現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>係留スペースの確保。</li> <li>棧橋が老朽化している。</li> <li>港の利用者及び訪問者の滞在時間を増やせるような仕掛けが必要である。</li> </ul>
将来の事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの事業者が現状維持と回答しており、これまで通り港湾施設の利用を希望している。</li> </ul>
三原内港再生に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>港湾ビルは老朽化しており、早期の建替えが必要である。</li> <li>航路利用者の動線（JR三原駅からペアシティ中央ロード、旅客ターミナル及び棧橋まで）が、短くスムーズな方がよい。</li> <li>西物揚場エリアが、広いイベントスペースに整備されれば活用したい。</li> <li>カフェ等の飲食できる店舗が増えて、緑が多くなれば、港で人が待機する時間が増えると思う。</li> <li>西物揚場及びフェリー棧橋は、物資補給や緊急時も含めた係留場所として残してほしい。</li> <li>ロータリー及び大型バスの駐車場が必要である。</li> <li>タクシーの利用は高齢の方が多いので、タクシーの待機場は旅客ターミナル出入口に近い方が良い。</li> </ul>



## 第2節 検討部会

三原市では、市中心部における港の活用及び景観形成のニーズ等を把握するとともに今後のにぎわいを創出するため、にぎわいづくり及び景観形成検討部会を開催した。

### (1) 検討部会の実施内容

市中心部におけるにぎわいづくり及び景観形成検討部会の実施内容については、表 3-5 及び表 3-6 のとおりである。

表 3-5 にぎわいづくり検討部会の内容

項目	内容
実施内容	市中心部におけるにぎわいづくりに関する検討
開催日	第1回：令和4年7月21日（木） 【概要】三原内港の活用における課題出しや必要となる取組等の意見出し 第2回：令和4年9月22日（木） 【概要】市中心部と三原内港が一体になるようなにぎわいづくりについて意見の見える化 第3回：令和4年11月16日（水） 【概要】検討部会の取りまとめ
構成員	中心市街地活性化基本計画を担う中心市街地活性化協議会の事業者を中心に14名で構成
まとめ	① 365日、人々が訪れるよう、内港全体を公園とする。 （遊具、テーブル付きベンチ、日除け、サイクリスト向け施設、遊歩道、芝生や砂場等裸足で過ごせる、歴史を活かす、親水性を感じさせる等） ② 公園には、親しみが持てるよう、名前を付ける。 ③ 子どもから高齢者、障がいのある方等、多様な人々が安心して過ごすことができるよう安全性を持たせる。 ④ イベントの情報共有や発信、連携を図る仕組みを民間主体で整える。 ⑤ 定期的なイベントを開催する。

表 3-6 景観形成検討部会の内容

項目	内容
実施内容	市中心部における景観形成に関する検討
開催日	<p>第1回：令和4年6月22日（水） 【概要】市中心部における三原内港の景観についての意見出し 三原駅と三原内港をつなぐ各通りの現状と今後についての意見出し</p> <p>第2回：令和4年8月26日（金） 【概要】各視点場から望む港の景観への意見出し 施設・拠点・軸における景観への意見出し</p> <p>第3回：令和4年10月19日（水） 【概要】検討部会の取りまとめ</p>
構成員	地域住民及び商工業事業者を中心に15名で構成
まとめ	<p>① 三原内港は、ペアシティ中央ロードを軸に、港と街が一体的なまちなみとなるよう景観形成に努める。 （照明、植栽、港の建築物・工作物の高さ・外観等）</p> <p>② 港全体を、開放的なくつろぎ・憩いの空間とする。</p> <p>③ 三原内港においては、視界をさえぎるような建築物・工作物は最小限に抑え、展望が良い、開放的な空間を創る。</p> <p>④ バリアフリー、歩行者にやさしい、歩きたくなる安心・安全な港をつくる。</p> <p>⑤ 内港内の各エリアにおいて、親水空間を活かした景観を創出する。 （視点場整備、ライトアップ、船舶係留スペース等）</p> <p>⑥ イベント広場は、港に人々を呼び込むことができるよう、港の周辺からイベントを見えるようにする。</p> <p>⑦ 港から駅、駅から港までの動線を分かりやすくする。（サイン、歩道、ランドマーク（モニュメント、オブジェ）等）</p>

検討部会の検討結果は、図 3-3 及び図 3-4 に示すとおりである。

令和4年度 市中心部におけるにぎわいづくり検討部会まとめ

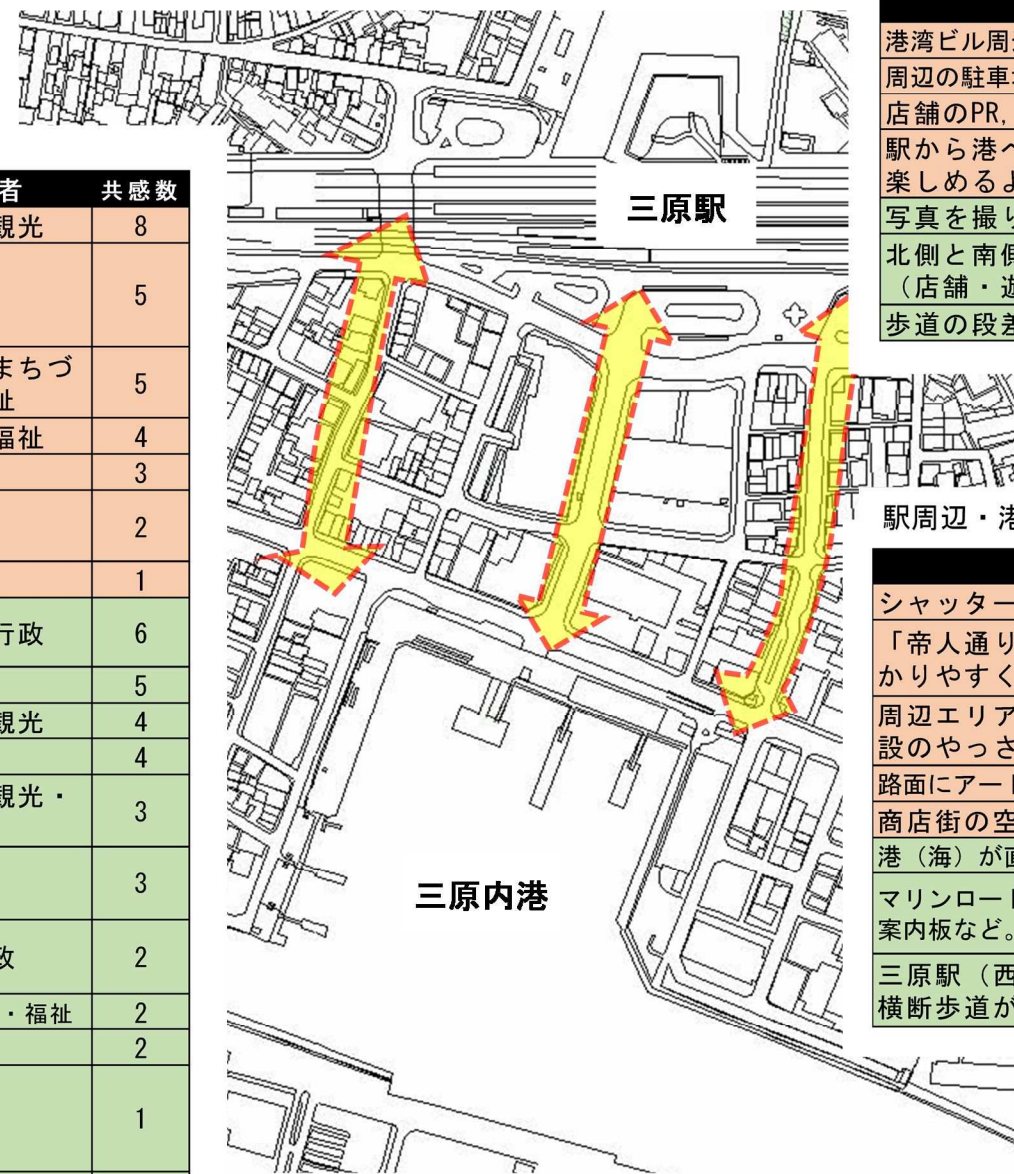
- 365日、人々が訪れるよう、内港全体を公園とする。  
(遊具、テーブル付きベンチ、日除け、サイクリスト向け施設、遊歩道、芝生や砂場など裸足で過ごせる、歴史を活かす、親水性を感じさせるなど)
- 親しみが持てるよう、緑地・公園に名前を付ける。
- 子どもから高齢者、障がいのある方など、多様な人々が安心して過ごすことができるよう安全性を持たせる。
- イベントの情報共有や発信、連携を図る仕組みを民間主体で整える。
- 定期的なイベントを開催する。

◆参考

(検討部会で共感する及び大事にしたいとされた意見)

三原内港

主な意見	発言者	共感数
定期的なイベント開催	商工業・観光	8
旧フェリー待機レーンに誰でも気軽に立ち寄れるスペース(常設テント)、キッチンカーやコンテナショップなどがいつでもできる	商工業	5
親水性を活かしたイベント(SUP・マリッジットなど)	商工業・まちづくり・福祉	5
サイクリスト向け施設・イベント	商工業・福祉	4
水上バス、タクシー・ミニクルーズ	観光	3
港全体を公園として名前を付ける(例:シーサイド見晴らし公園)	商工業	2
港らしさ(海・船)をもっと見せる	商工業	1
内港全体を公園とする(遊具、水場、食事、歴史、雨天対応型)	商工業・行政	6
イベント用ステージ	商工業	5
ウォーキングルートの整備、安全で開けた遊歩道	商工業・観光	4
水上デッキ	行政	4
芝生、mini砂浜(裸足で過ごせるスペース)、ピクニックスペース	商工業・観光・行政	3
フェリー桟橋付近の自転車置き場を移動させて、景観を良くする	商工業	3
安全対策・子どもが安心して走ることができる安全性を持たせる	福祉・行政	2
日よけとテント	まちづくり・福祉	2
海の駅	商工業	2
プレジャーボートやヨット、マリッジットなどが一時的に係留できる場所をつくる(そこから、市内を回遊できるように)	商工業	1
イルミネーション・ライトアップ	まちづくり	1



市中心部全体

主な意見	発言者	共感数
港湾ビル周辺の駐車場料金の減免又は安い駐車料金	福祉	2
周辺の駐車場確保・駐車場の場所を分かりやすく	観光	1
店舗のPR、店先にデザイン的な看板を出す	まちづくり	1
駅から港へのサイン(案内)を増やし、通りを楽しめるように	商工業	1
写真を撮り情報発信したくなるようなオブジェ	行政	2
北側と南側それぞれに目的となるものをつくる(店舗・遊具・フォトスポット・休憩場所)	商工	1
歩道の段差軽減	行政	1

駅周辺・港と駅をつなぐ各通り

主な意見	発言者	共感数
シャッターアートでシャッターをにぎやかに	商工業	3
「帝人通り」、「マリンロード」など通りを分かりやすく	商工業	2
周辺エリアの情報を分かりやすく表示する(既設のやささだるマンのタッチパネルの活用)	商工業	1
路面にアート(やささだるまんなど)・カラー舗装	商工業	1
商店街の空き店舗改善	まちづくり	1
港(海)が直感的に分かる道路・歩道の色等を統一	行政	3
マリンロードと港をつなぐ城町地下道にサインージ・案内板など。歩いてみたくなる地下道に	商工業	2
三原駅(西)の交差点・キオラスクエア北側の横断歩道が渡りづらい	商工業	1

凡例: 主にイベント開催等に関する意見(ソフト)

主に設備・機能等に関する意見(ハード)

図 3-3 にぎわいづくり検討部会の検討結果

## 令和4年度 市中心部における景観形成検討部会まとめ

- 三原内港は、ペアシティ中央ロード（城町30号線）を軸に、港と街が一体的なまちなみとなるよう景観形成に努める。（照明、植栽、港の建築物や工作物の高さ・外観）
- 港全体を、開放的なくつろぎ・憩いの空間とする。
- 三原内港においては、視界をさえぎるような建築物・工作物は最小限に抑え、展望が良い・開放的な空間を創る。
- バリアフリー、歩行者にやさしい、歩きたくなる安心・安全な港をつくる。
- 内港内の各エリアにおいて、親水空間を活かした景観を創出する。（視点場整備、ベンチ、ライトアップ、ビジターバース・船舶係留スペース、雁木など）
- イベント広場は、港に人々を呼び込むことができるよう、港の周辺からイベントを見えるようにする。
- 港から駅、駅から港までの動線を分かりやすくする。（サイン、歩道、ランドマーク・モニュメント・オブジェなど）

### ◆参考

（検討部会で共感する及び大事にしたいとされた意見）

#### 港と周辺の景観

主な意見	発言者	共感数
停泊している船や航行している船を見せる	商工業・まちづくり	4
サイン（駅、港への道を分かりやすく）	移住者・福祉	2
港全体でイベントができる・遊べる空間	地域	1
非日常感を感じる見通しのよさ・抜けた視界	商工業	1
統一感のある雰囲気・街並み	地域	1
歩行者にやさしい・ウォーカブルな街づくり	地域	1
乳幼児や未就学児から高齢者まで一緒にくつろげるスペース	まちづくり・福祉	4
写真スポットをつくる	商工業	3
「三原内港」をイメージさせるモニュメント	地域・移住者	2

#### ④内港西物揚場

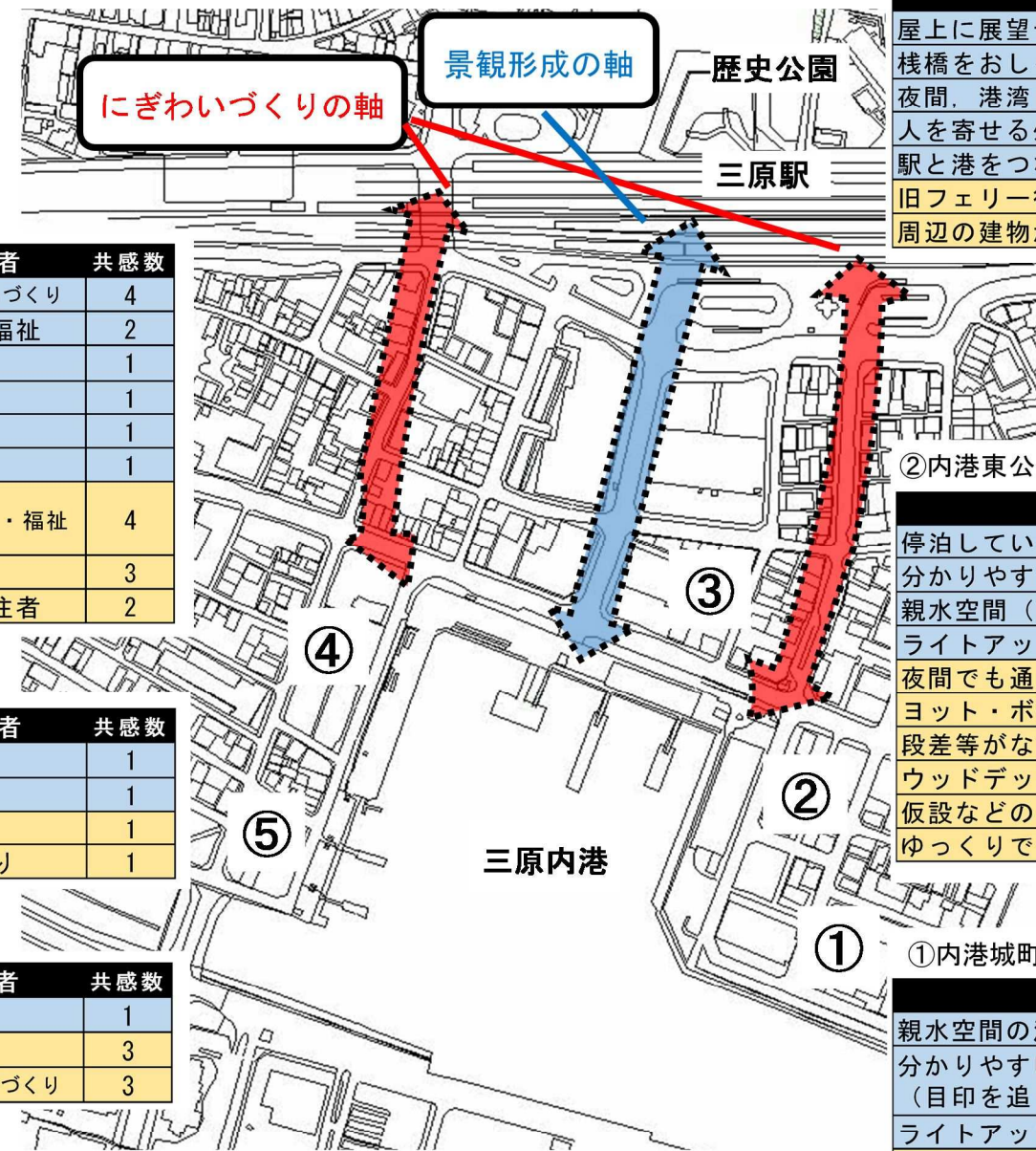
主な意見	発言者	共感数
港全体でイベントができる・遊べる空間	地域	1
港らしい雰囲気づくり（ベンチ・街灯）	地域	1
仮設などのイベント用ステージ	地域	1
ビジターバースの増設	まちづくり	1

#### ⑤内港西公園

主な意見	発言者	共感数
正面は海、左には街、右には山の景観が楽しめる	移住者	1
護岸に係留している船の整理	行政	3
水辺を楽しめる工夫（雁木など）	商工業・まちづくり	3

凡例：景観形成に関する意見

景観形成につながる設備等に関する意見



#### ③ペアシティ中央ロード・港湾ビル

主な意見	発言者	共感数
屋上に展望デッキがある低層の建物に建替	まちづくり・移住者	6
栈橋をおしゃれに	まちづくり	1
夜間、港湾ビルが暗い	まちづくり	1
人を寄せる外観のターミナル	商工業	1
駅と港をつなぐ通りに一体的な街灯	福祉	1
旧フェリー待機レーンの活用	行政	1
周辺の建物から港を見せたいような	商工業	1

#### ②内港東公園・内港東駐車場

主な意見	発言者	共感数
停泊しているヨットやボートが見える	地域	3
分かりやすい通路の導線	地域	2
親水空間（水遊び）	まちづくり	1
ライトアップ	移住者	1
夜間でも通りやすい	地域	2
ヨット・ボートの係留場所の拡充	地域・商工業	2
段差等がなく歩きやすい通路	まちづくり・福祉	2
ウッドデッキやオープンカフェ	移住者	2
仮設などのイベント用ステージ	地域	1
ゆっくりできるスペースの確保	まちづくり	1

#### ①内港城町公園

主な意見	発言者	共感数
親水空間の演出（防潮壁で視線が遮られる）	地域	4
分かりやすい通路の導線（目印を追って行けば港へ着く）	地域・まちづくり	3
ライトアップ	商工業	2
夜間でも通りやすい	地域	2
海が見えるデッキ	移住者	2

図 3-4 景観形成検討部会の検討結果

## 第4章 港湾機能の配置

港湾機能（基本計画で三原内港に導入することとしている3つの常設的機能、P4参照）の配置については、対象区域を設定して各港湾機能に必要な施設等について検討し、取りまとめた。

### 第1節 対象区域

港湾機能の配置の対象区域については図4-1に示すとおり、灰色の陸域エリアと水色の水域エリアからなる三原内港エリアとする。

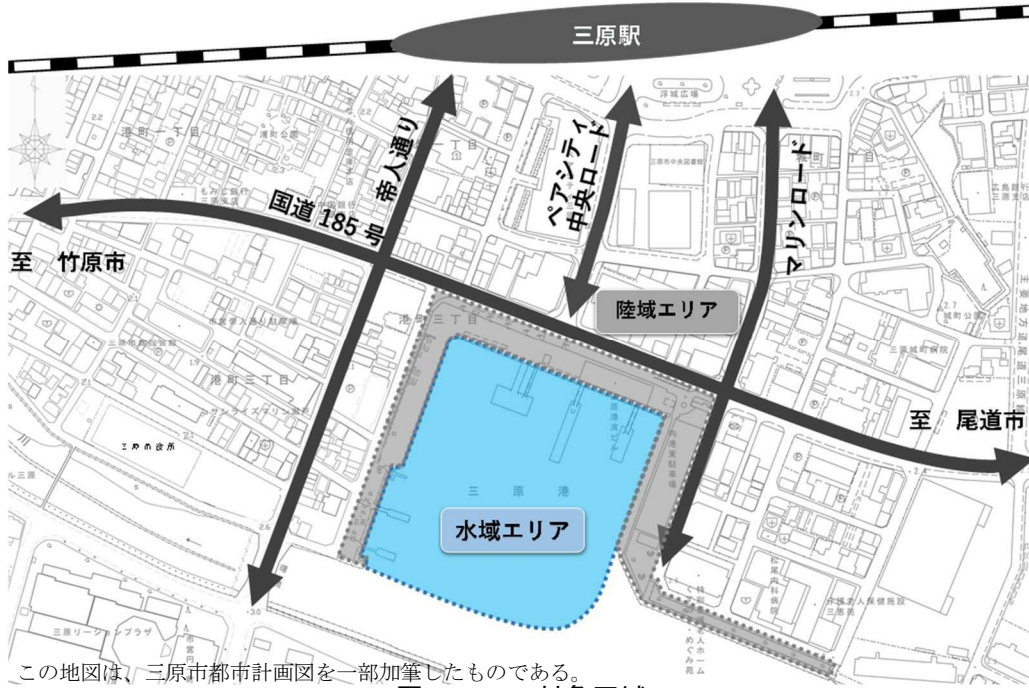


図4-1 対象区域

三原内港の港湾施設は、図4-2で示すとおりである。三原内港ではこれまでに、栈橋、物揚場、臨港道路、駐車場、旅客上屋、荷さばき地及び公園が整備されている。

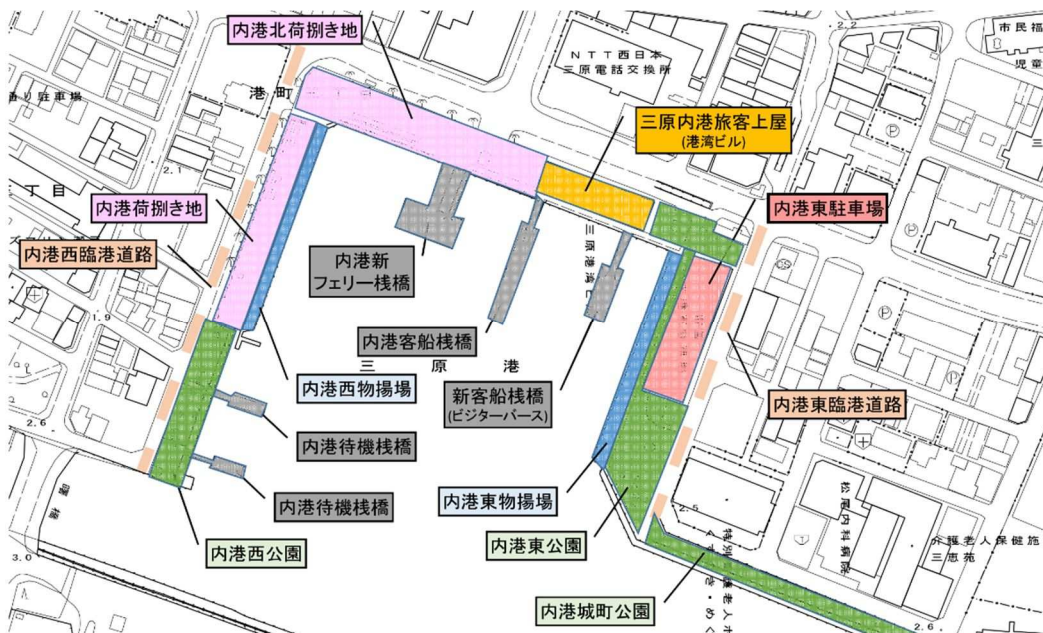


図4-2 三原内港の港湾施設配置図（出典：三原内港再生基本計画（令和4年3月））

## 第2節 港湾機能の配置に関する基本的な考え

港湾機能の配置については、基本的な考えを表 4-1に取りまとめた。また、市中心部の拠点である三原内港と三原駅、それらをつなぐ各通りの位置関係から、機能配置概念図を図 4-3に整理した。

表 4-1 機能配置に係る基本的な考え

カテゴリー	機能配置の基本的な考え方
市中心部	<ul style="list-style-type: none"> <li>街や港を散歩したり、海を眺めたり、訪れるだけで楽しめる場所づくりを進めるとともに、景観ガイドラインの策定に取組み、当該範囲の賑わいを周辺へ波及させ、賑わいと回遊性の向上を目指す。</li> <li>三原城跡から、JR三原駅、キオラスクエア、三原内港の各拠点において、各施設の魅力向上による利用促進及び官民連携による賑わいの創出を図る。</li> <li>令和5年度から円一エリア公共施設再編整備基本計画の策定に着手する予定であり、隣接する三原駅及び港がある市中心部に整えられる機能や役割を調整しつつ円一エリアを整備・活用し、中心市街地における回遊性の確保・向上を図る。</li> </ul>
港と駅をつなぐ各通り	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアシティ中央ロードを景観形成の軸として、港と街が一体的となるまちなみを形成する。</li> <li>ペアシティ中央ロード、マリンロード及び帝人通りは、にぎわいづくりの軸として、官民連携によるにぎわいの創出を図る。</li> </ul>
三原内港	<ul style="list-style-type: none"> <li>港全体を緑地・公園とする。</li> <li>旅客ターミナルから棧橋やペアシティ中央ロードへの動線を円滑にする。</li> <li>港が開放的な空間となるよう航路機能を配置する。</li> <li>老朽化した港湾ビル等の再生に取り組む。</li> <li>国道や港の周辺から見えるようにイベント広場を配置する。</li> <li>緊急物資輸送等の防災機能を確保する。</li> <li>港と周辺、港内を回遊できるように、歩行者動線・空間を確保する。</li> <li>港を活用したにぎわいづくりや親水性を高めることで、港周辺における市の支援事業を活用した飲食やオフィス等の民間投資を促す。</li> </ul>

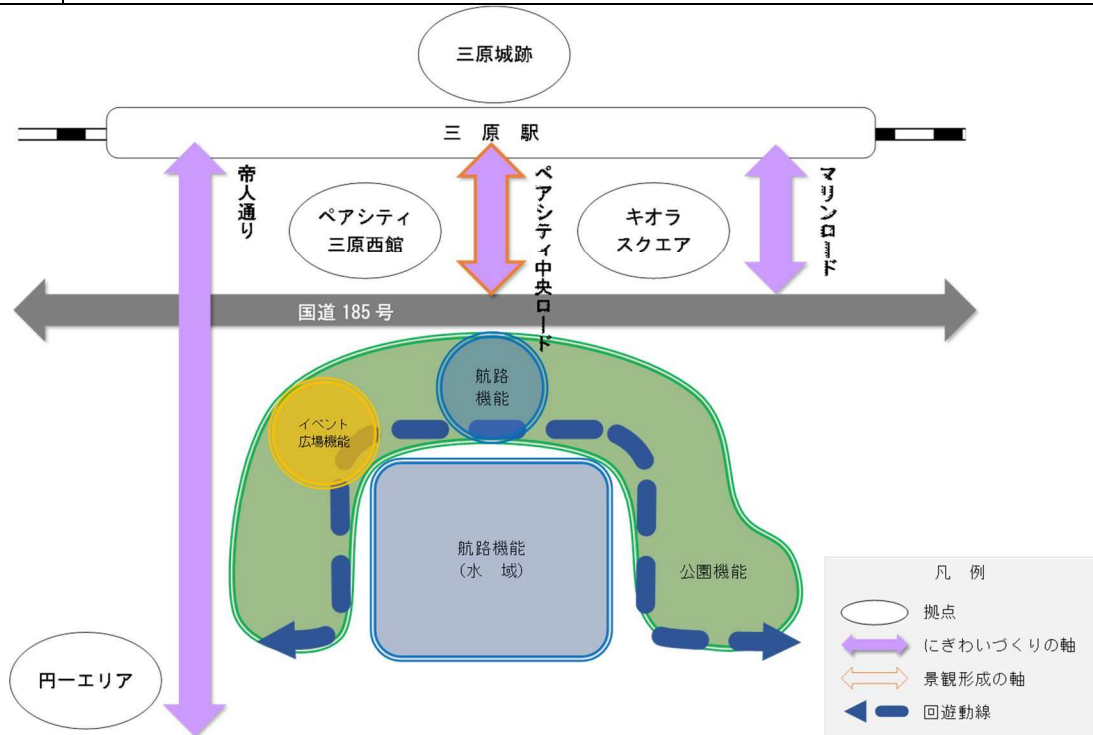


図 4-3 市中心部における機能配置概念図

### 第3節 港湾機能の配置

#### (1) 港湾機能別の必要施設

各港湾機能に必要とされる主要施設について、ヒアリング調査及び検討部会の結果等を踏まえて検討した内容を図 4-4 に整理した。

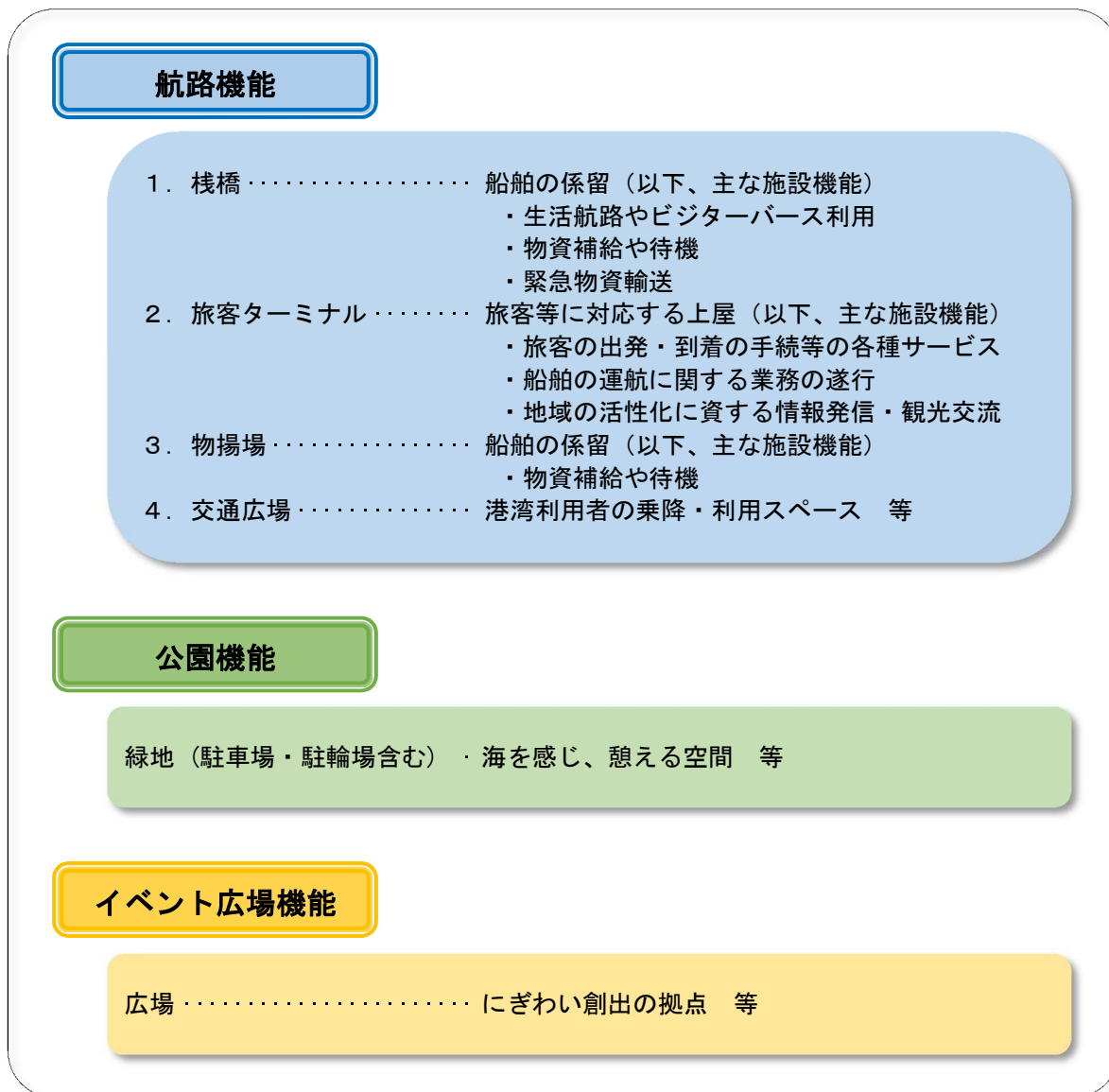


図 4-4 港湾機能別の必要施設

## (2) 港湾機能の配置 (案)

港湾機能の配置及び各機能の必要施設を整理した結果を港湾機能の配置 (案) として図 4-5 に、各港湾機能の規模を表 4-2 に示す<sup>1</sup>。

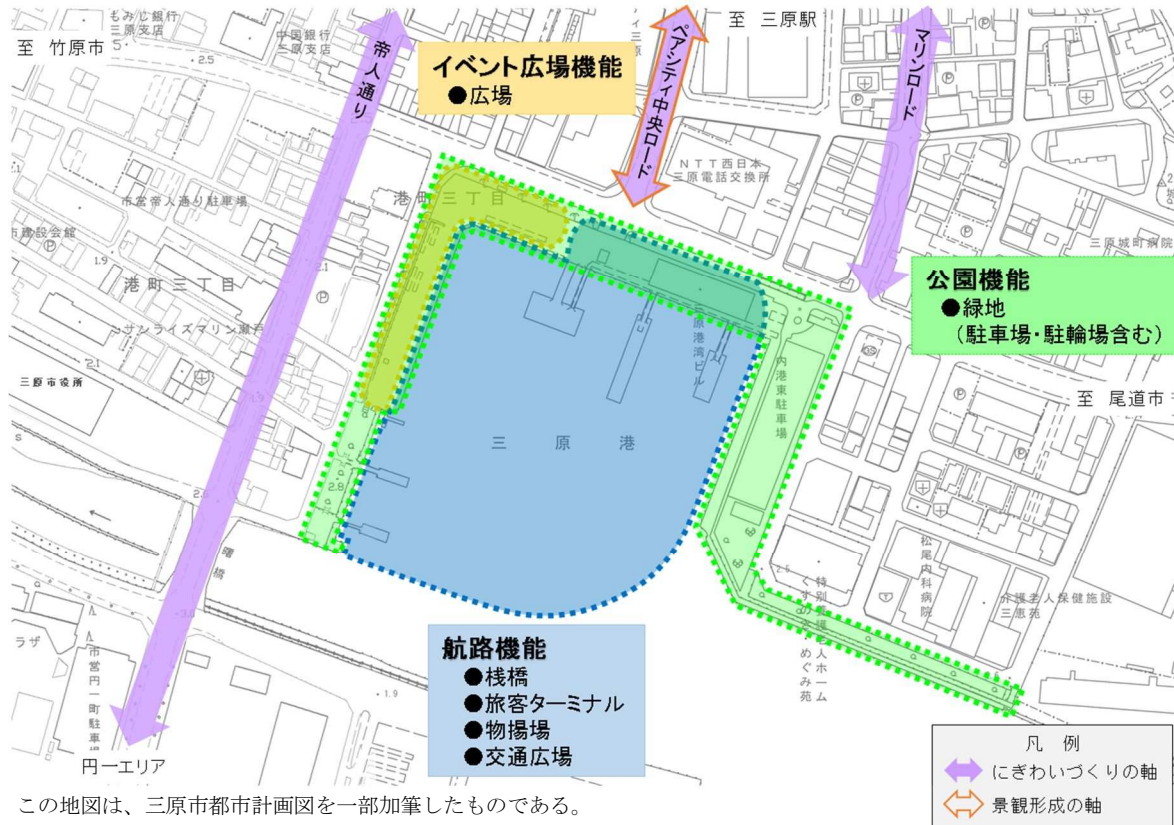


図 4-5 港湾機能の配置 (案)

表 4-2 (参考) 港湾機能の規模

港湾機能	必要施設	規模 陸域面積 (ha)
航路機能	棧橋、旅客ターミナル、物揚場、交通広場	0.2
公園機能	緑地 (駐車場・駐輪場含む)	1.0
イベント広場機能	広場	0.4
計		1.6

<sup>1</sup>港湾機能の配置 (案) 及び規模については、今後設計を進めていく中で変更の可能性あり。



## 第4節 施設整備の考え方

三原内港再生に伴う施設整備については、以下の内容を考慮しながら、今後の基本・実施設計を進める。

### (1) 施設全体

#### ア) 全体像

三原内港全体を公園として捉え、その中に航路機能である旅客ターミナルやイベント広場機能として広場を確保する。施設整備にあたっては、中心市街地に位置する内港にふさわしい、にぎわいにつながる開放的な空間とする。

#### イ) 基本事項

- ① 子ども、高齢者、障がいのある人、外国人等多様な人々が安心して訪れることができるよう、バリアフリー・ユニバーサルデザインを導入する。
- ② 港全体や瀬戸内の島々への眺望を確保するとともに、ペアシティ中央ロードや港周辺のまちなみが一体的となるよう、施設・設備の配置や高さ、規模、形態意匠に配慮する。
- ③ 駅や円一エリアとの接続等、中心市街地における歩行者の回遊性向上につながるサインや歩道を確保する。
- ④ 夜も歩きたくなるような歩行者空間を演出する照明等の設備を配置する。
- ⑤ 高潮等による浸水被害を防止するため、海岸保全施設を配置する。
- ⑥ 既存ストックを有効活用する。
- ⑦ 効率的・効果的なにぎわいづくりや利便性の向上を図るため、官民連携を推進する。

### (2) 航路機能

#### ア) 全体像

三原内港は、市中心部のにぎわいづくりや景観形成に向けた快適に過ごせる開放的な空間の確保が求められており、また近年では生活航路の利用に加え、大久野島を繋ぐラビットラインや広島港(宇品)を繋ぐシースピカといった観光航路の新設や佐木島における観光活性化やスポーツイベントの開催等、市内外から訪れる人々の受入環境の充実が必要となっている。一方で、既設の旅客ターミナルは、建築から50年以上が経過し、施設の老朽化が進んでおり、早期の対策が必要である。

このような状況を踏まえ、三原内港については、港・駅・街・島をつなぐ拠点として、人と人との交流を促進するとともに、港を感じさせる良好な空間とする。

#### イ) 基本事項

- ① 旅客ターミナルの位置は、航路利用者が安全快適に利用しやすいよう、動線に配慮する。
- ② 旅客ターミナルは、航路利用者だけでなく港を訪れる人々が利用できるよう、必要施設を配置し、機能を確保する。
- ③ 市中心部のにぎわいづくりや景観形成に向けた快適に過ごせる開放的な空間を確保するとともに、施設の老朽化や再整備を求められている状況に対応するため、既設の旅客ターミナルは、低層に建替える。

なお、その規模や必要施設については、表 4-3 に示す。

表 4-3 旅客ターミナルの規模及び必要施設

区分	必要施設
旅客ターミナル	低層とし、必要な床面積 600m <sup>2</sup> 程度とする
旅客施設	旅客待合室、発券機スペース、出札室、エントランスホール
港湾厚生施設	トイレ
港湾管理施設	管理事務所（監視及び清掃関係、資材倉庫含む）
港湾業務施設	航路事業者事務所
その他	地域・観光交流センター、展望スペース 等

- ④ 近年、スーパーヨットやチャータークルーズ等の新たな需要があることから、利用状況に合わせてビジターバース機能を維持・拡充する。
- ⑤ 旅客ターミナルに隣接して、送迎用車両待機場（タクシー利用含む）や思いやり駐車場を含む交通広場を配置する。
- ⑥ 船舶利用と連携した観光を促進するため、大型バスの乗降スペースを確保する。

### （3）公園機能

#### ア) 全体像

子ども、高齢者、障がいのある人、外国人等市内外の多様な人々が、平日・休日を問わず、海を感じ、憩える空間となるような公園を確保する。

#### イ) 基本事項

- ① 景観を楽しみながら回遊できるよう、港の東から西まで一連の開放的な歩行者空間を確保する。
- ② 港を訪れる人々が利用できるよう、駐車場・駐輪場を配置する。
- ③ 港を訪れる人々が快適に過ごせるよう、ベンチや植栽等の休養・修景施設を配置する。  
なお、大径木化した樹木（ワシントンヤシ等）については、景観、環境、維持管理等の観点から、伐採もしくは植え替える。
- ④ 港や街の歴史を感じさせるよう、碇やプロペラ等のモニュメントや内港西公園付近に残る雁木を活用する。

### （4）イベント広場機能

#### ア) 全体像

三原内港とその周辺が中心市街地におけるにぎわい創出の拠点となるよう、イベントができる広場を確保する。

#### イ) 基本事項

- ① スポーツや食等の多目的なイベントに対応できるよう、平坦で使いやすい広場を確保する。
- ② マルシェや産直市等の様々なイベントの開催に必要な設備を配置する。

## 第5章 にぎわいづくり

三原内港を含む市中心部におけるにぎわいづくりに向け、にぎわいづくりの推進体制の構築やイベントの開催についての方針を表 5-1 に示す。

表 5-1 にぎわいづくりに向けた方針

項目	主要な内容
にぎわいづくりの仕組（推進体制）	・ イベントの情報共有や発信、連携を図る体制を民間主体で整える。
イベント開催	・ 民間事業者や NPO 法人等と連携して、港のにぎわいをいつでも感じることができるように定期的なイベントを開催する。

なお、にぎわいづくりの推進体制については、市中心部を対象にして、図 5-1 に示すように中心市街地活性化協議会の構成員である株式会社まちづくり三原、三原商工会議所及び一般社団法人三原観光協会を中心に民間事業者（にぎわいづくりのプレイヤー）とともに構築し、行政等関係者と連携・調整して、にぎわいづくりに取り組むことを想定している。

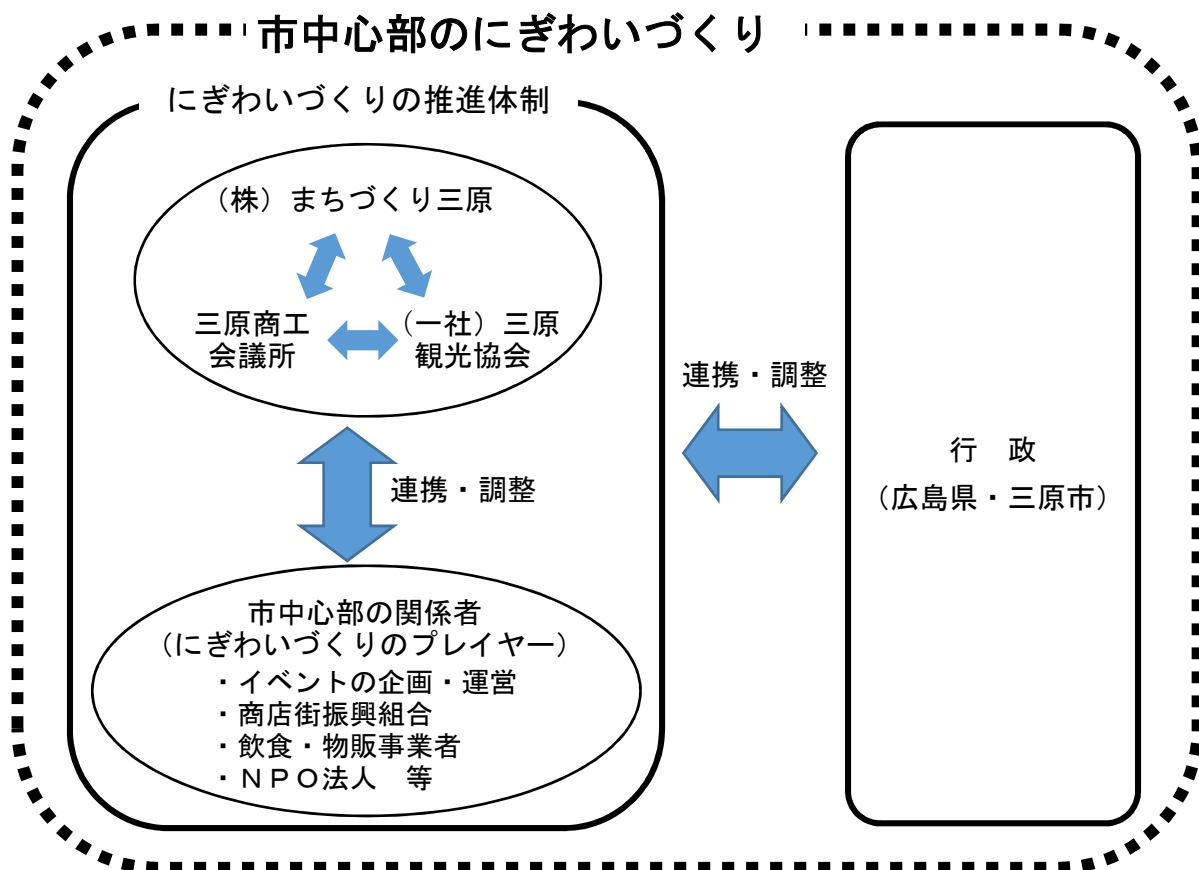


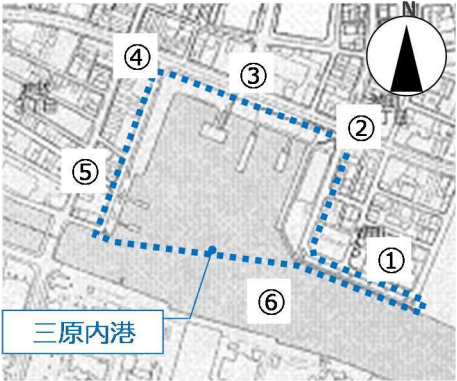
図 5-1 にぎわいづくりの推進体制のイメージ

## 第6章 景観形成

三原内港と港の周辺から見える景観については、上位関連計画との整合を図るとともに、景観計画の策定を見据え、街並みや三原城跡等の歴史的景観との調和に配慮した、市中心部にふさわしい良好で魅力あるエリアになるよう、表 6-1 に示す方針を踏まえて各種事業を進めていく。

また、各種事業に合わせて、地域住民やまちづくり関係者の理解を得ながら、景観の形成を図るものとする。

表 6-1 景観形成についての方針

項目	主要内容
内港の景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港全体を見渡すことができるよう、また、瀬戸内の島々やしまなみ海道への眺望を確保できるよう、施設の配置や高さ、規模、形態意匠に配慮する。</li> <li>・港と街が一体的なまちなみとなるよう、ペアシティ中央ロードと統一感を持たせる。</li> <li>・港内は安全性に配慮しつつ、親水性の向上、周辺の緑化推進等により水辺景観の向上を図る。</li> <li>・舗装材や夜間照明の統一感を図ることにより、魅力の向上とにぎわいの創出を図る。</li> </ul>
内港周辺からの景観 ※各地点（視点場）から見える景観	<p>地点① 内港城町公園からの眺望 ：入出港する船舶や瀬戸内の島々への眺望を確保する。</p> <p>地点② 三原駅前通り交差点からの眺望 ：停泊している船舶や港が見えるよう眺望を確保する。</p> <p>地点③ 三原棧橋前交差点からの眺望 ：三原内港の全容や筆影山が見えるよう眺望を確保する。</p> <p>地点④ 帝人通り交差点からの眺望 ：開放的な空間となるよう眺望を確保する。</p> <p>地点⑤ 内港西公園からの眺望 ：瀬戸内やしまなみ海道（因島大橋）が一望できる眺望を確保する。</p> <p>地点⑥ 船舶からの眺望 ：統一したデザインや敷地内緑化により、一体的で開放的な眺望を確保する。</p> 

## 第7章 実施スケジュール（案）

施設整備、にぎわいづくり及び景観形成の実実施スケジュール（案）は、図 7-1 に示すとおりであり、施設整備、にぎわいづくり及び景観形成については、相互連携しながら推進していく。

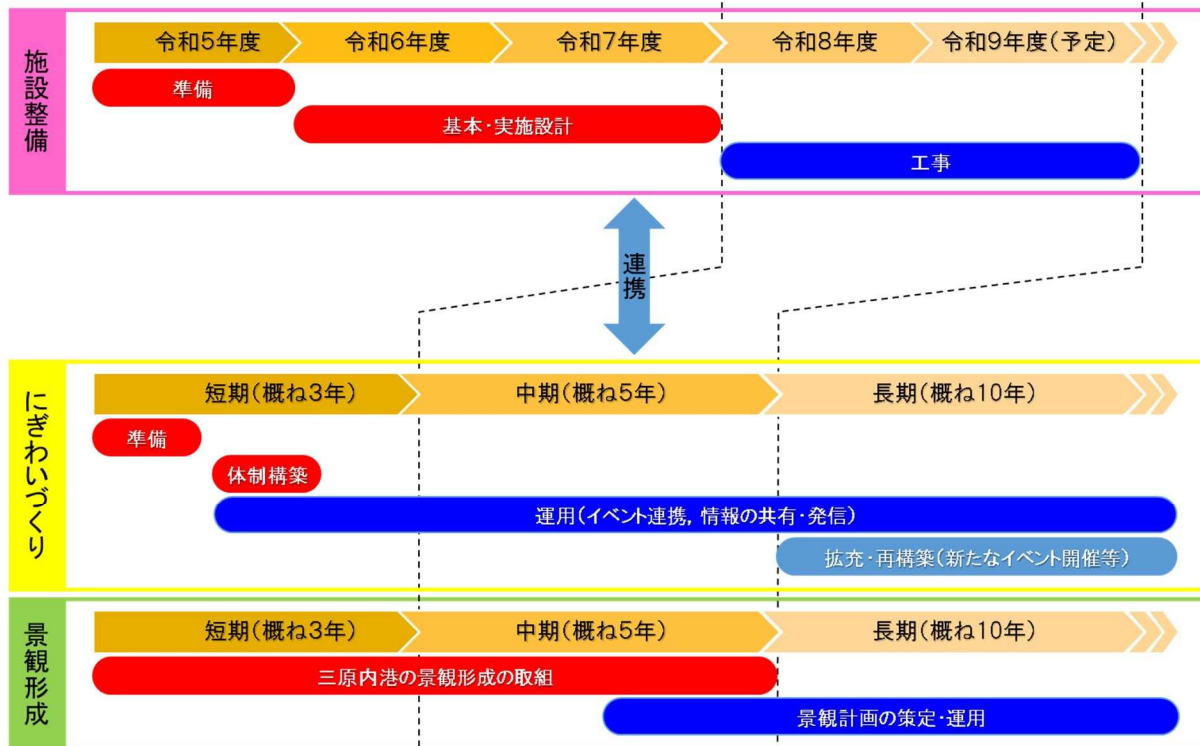


図 7-1 実施スケジュール

## 第8章 内港再生の実現に向けて

本実施計画は、交通、商業、行政等の様々な都市機能が集積する市中心部に位置する三原内港が、人が訪れ、楽しみ、滞留する場所として再生することを目指し策定したものである。

本計画の実施にあたっては、広島県と三原市との連携に加え、地域住民や民間事業者の関わりや参画のもとで、取組を進めていくことが重要である。そのため、にぎわいづくりの推進体制をはじめ、多様な主体による協働を図り、内港再生の実現に向けて取組を推進する。